

令和3年1月7日	
資料提供	
担当課(室)	県立紀伊風土記の丘
担当班・係	学芸課
担当者	瀬谷
電話	073-471-6123

## 令和2年度冬期企画展の開催について

下記のとおり令和2年度冬期企画展を開催しますのでお知らせします。

### 記

1. 名称 「No 工具 , No Life - 「木の国」 一万年の工具箱 -」
2. 期間 令和3年1月16日(土)～令和3年2月28日(日)
3. 内容

和歌山県は、豊かな自然に恵まれ、現在も県土の7割以上が森林という「木の国」であります。木材は、古くから建築やあらゆる生活道具の素材として利用されてきましたが、木製品は地中で腐食して残りにくいため、発掘調査ではあまり多くは出土していませんでした。

しかし近年、すさみ町の立野遺跡や和歌山市の井辺遺跡などから、良好な状態で多種多様な木製品が発掘されました。出土した建築部材、農具、容器、匙、機織具、腰掛、鎧などの木製品は、弥生時代や古墳時代の人々の生活を、彩り豊かに復元し、加えて、現代とも変わらない精工な木製品は、当時の木工技術の高さを教えてくれます。

木の加工には、鑿や鋸、鉋、錐などの多様な道具がそれぞれに大きさや厚さを変えて何種類も必要となってきます。昭和18年に行われた大工道具の調査では、本格的な建物をつくるための大工道具(標準編成)は179点にも及ぶといえます。古代の遺跡から出土する木工具は、石斧や錐、ヤリガンナなどわずかな種類しかありませんが、実はこれらの道具で木の伐採から加工までの全ての役割を担っていたのです。中でも、自然石の一部を磨いて刃部とし、木の柄にはめて作った石斧は、出土品の中ではあまり目立つ資料ではないかもしれませんが、実は万能工具として古代の豊かな木工文化を支える立役者だったのです。

本企画展では、こうした和歌山県内の縄文時代から古墳時代を中心に、遺跡から出土した木工具に注目し、その役割や木工技術、道具の変遷のほか、出土木製品からみえてきた当時の人々の生活など、和歌山県における人と木の歴史について紹介します。

#### 4. 展示講座

企画展展示講座 令和3年2月7日(日) 13:30～15:30

定員：15名(先着順・電話申込) 参加費：資料代100円及び入館料

申込受付開始：令和3年1月22日(金) 13:00～

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

5. 入館料 一般 190 円／大学生 90 円  
※高校生以下、65 歳以上、障害者手帳をお持ちの方及び県内在学中の  
外国人留学生は無料（要証明書）